

## ◆ サステナビリティ経営の推進

### 基本的な考え方

当社は企業理念を実践し、イノベーションへのチャレンジによって新しい価値をお客様や社会に提供することで成長してきました。一例を挙げると、1997年発売の「キシリトールガム」は、お菓子がむし歯の原因になるというそれまでの常識を覆し、チューインガムで歯を丈夫で健康に保つという新しい価値を提供し、さらに「むし歯のない社会へ。」という社会課題の解決にも貢献してきました。すなわち、社会課題の解決と同時に経済価値を創出するCSV(Creating Shared Value: 共通価値の創造)の考え方です。これからも、企業理念の実践によってCSVにチャレンジすることで、気候変動や人権問題などの現代社会が直面する課題の解決に貢献していきます。2018年には、このようなサステナビリティ経営の考え方を明文化したサステナビリティ方針を制定しました。

当社の企業理念は、ロッテグループミッションと、それを実現するために創業当時から大切にしてきた3つの価値ロッチバリューによって構成されており、全ての事業活動の中心となっています。ロッチバリューには「ユーザーオリエンテッド(お客様第一)」「オリジナリティ(獨創性)」「クオリティ(最上の品質)」を掲げており、これらがCSVを実現するイノベーションへのチャレンジの原動力です。

#### ▶ ロッチグループ 企業理念体系

<https://www.lotte.co.jp/corporate/about/philosophy/>

#### ▶ (株)ロッテ サステナビリティ方針

<https://www.lotte.co.jp/corporate/about/philosophy/sustainability.html>

### 推進体制

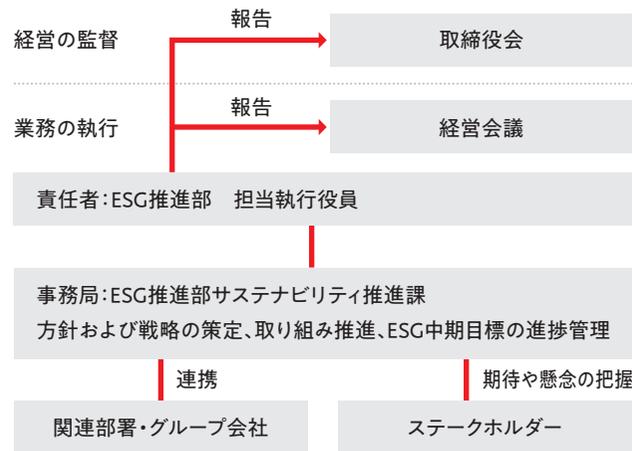
当社ESG推進部の担当執行役員が責任者、同部サステナビリティ推進課が事務局となり、関連部署やグループ会社と連携して取り組んでいます。また、サステナビリティに関する方針および戦略の策定やESG中期目標の進捗管理も同課が行っており、関連部署と連携して取り組みを推進しています。ESG中期目標の進捗および、サステナビリティに関する重要事項について、担当役員より経営会議および取締役会に報告しています。2022年度は、経営会議で4回(4件)、取締役会で4回(5件)報告しました。また、事務局は社会とのコミュニケーションを通してステークホルダーからの期待や懸念を把握し、サステナビリティ経営に

反映する役割も担っています。社外有識者と定期的にダイアログを行うことで(P15参照)、社外の視点を取り入れるようにしています。

事業に重大な影響を及ぼす可能性のあるサステナビリティ関連リスク(気候変動関連リスクP20参照、人権リスクP32参照)については、リスク管理委員会を中心とするリスク管理体制(P54参照)に基づいて管理しています。

情報開示についても同課が担当しており、GRI\*1やSASB\*2を参考にしながら、ステークホルダーの皆様との対話に資するよう開示内容の拡充に努めています。

- \*1 GRI: Global Reporting Initiativeの略。サステナビリティに関する国際基準の策定を行う非営利団体。
- \*2 SASB: サステナビリティ 会計基準審議会(Sustainability Accounting Standards Board)の略。2011年に米国サンフランシスコを拠点に設立された非営利団体で、将来的な財務インパクトが高いと想定される企業のESG要素に関する開示基準を業種別に設定している。



### 従業員の教育

サステナビリティ経営を推進するためには、その担い手である従業員が考え方を十分に理解する必要があると考えています。そこで、従業員に対して様々なアプローチで教育・啓発を行っています。当社WEB社内報では、マテリアリティやESG中期目標について解説する記事を掲載するとともに、サステナビリティに関する情報をタイムリーに発信しています。さらに、人事部門が主催する各種研修の中で、サステナビリ

ティに関する内容を組み込んでおり、新入社員、新任基幹職および新任管理職向けの研修の中でサステナビリティについて説明しています。

また、社外より専門家を招聘し、マテリアリティに沿ったテーマで社内勉強会を開催しています。より多くの従業員が視聴できるよう、2020年度よりオンライン動画配信およびアーカイブ形式に変更して実施しています。

### → 勉強会実績

2019年度	オーラルフレイル*1 (関連するマテリアリティ: 食と健康) バーム油 (関連するマテリアリティ: 持続可能な調達) フードセーフティ (関連するマテリアリティ: 食の安全・安心)
2020年度	イクボス*2 (関連するマテリアリティ: 従業員の能力発揮) 食育 (関連するマテリアリティ: 食と健康)
2021年度	噛むこと (関連するマテリアリティ: 食と健康) 再生可能エネルギー (関連するマテリアリティ: 環境) 地球温暖化 (関連するマテリアリティ: 環境)
2022年度	プラントベースフード (関連するマテリアリティ: 食と健康、持続可能な調達) WEPs*3署名に関する対談 (関連するマテリアリティ: 従業員の能力発揮)

\*1 オーラルフレイル: 噛む、飲み込む、話すなどの口腔機能が衰えることを指し、フレイル(身体の衰え)の一種。

\*2 イクボス: 部下のキャリアやライフ・ワーク・バランスを応援しながら、組織としての効果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむ上司(経営者・管理職)のこと。

\*3 WEPs: 国連グローバル・コンパクトと国連婦人開発基金(現UN Women)が共同で作成した女性のエンパワメントに自主的に取り組む企業の行動原則。